

Kimiko Higuchi and Yohei Wakioka Piano Recital

樋口紀美子・脇岡洋平 ピアノリサイタル

ソロ&2台ピアノの夕べ



2020 **12/12** 土

午後 **2時** 開演
(13:30開場)
川口リリア 音楽ホール

JR京浜東北線 川口駅西口 正面
Saturday, December 12th, 2020 at 2:00pm
Ongaku Hall at Kawaguchi Lilia

全自由席 ¥4,000

※本公演は、来場者数を定員の半数以下に抑え、
新型コロナウイルス感染拡大予防策を講じて参ります。

チケット取扱い

■ライブニッツ工房

leibniz2014@gmail.com

TEL&FAX 048-255-8007

■e+イープラス <https://eplus.jp/>

【後援】一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会 (ピティナ)
国際ピアノデュオ協会

【問合せ】ライブニッツ工房 leibniz2014@gmail.com
TEL&FAX 048-255-8007

樋口紀美子

Kimiko Higuchi

J.S.バッハ インヴェンション 全15曲

脇岡洋平

Yohei Wakioka

J.S.バッハ パルティータ 第6番
ホ短調 BWV 830

2台ピアノ

Piano Duo

ドビュッシー 牧神の午後への前奏曲
(ドビュッシー編曲)

ラフマニノフ 組曲 第2番 作品17

序奏

ワルツ

ロマンス

タランテッラ



6歳より母の手ほどきでピアノを始める。藤田晴子、田辺緑、岡部守弘、永井進、神西敦子、K.ヘルヴィツヒ、H.E.リーベンザーム、W.ブランケンハイム、ディノラ・ヴァルジの各氏に師事。1974年渡独。エッセン国立音楽大学、ベルリン芸術大学、ザールブリュッケン国立音楽大学演奏家コース卒業。

1977年、イタリアのフィナーレ・リグレ国際ピアノコンクールにて3位入賞。以来、ドイツ、スイス、イタリア各地で数多くのリサイタルを行なう。1980年スイスのルガノ国際ピアノコンクール「スケルツォ特別賞」。1981年以來、一時帰国しては東京にて13回のピアノリサイタルを開催。「音楽芸術」「音楽の友」「ムジカノーヴァ」「ショパン」各誌で高い評価を得る。1985年東京交響楽団とラフマニノフの協奏曲第二番を協演。1993年10月には「マーラー」大地の歌」ピアノ版を邦人ステージ初演し「音楽の友」のコンサート・ベストテンにノミネートされるなど絶賛を博す。1988年よりベルリンのフィルハーモニー、カンマムジークザールを中心に9回のリサイタル（ハンス・アードラー主催）で成功を取りベルリン・ピアノ界の常連としての地位を確立した。1993年の演奏会はベルリン最大有力紙「デア・ターゲス・シュペーゲル」の批評欄で「微笑む理性」と絶賛された。1994年9月、イタリアのシチリア島におけるイブラ・グランプリ国際ピアノ・コンクールでプロフェッショナル・ピアニスト部門入賞。1997年リスト・プログラムでCDデビュー、好評を博す。

ピアノ教育者としては、ドイツ青少年コンクール、ベルリンとハンブルクのスタインウェイ・ピアノコンクール、ケーテンのバッハ・ピアノコンクールなどで、常に上位入賞者、オーケストラとの再度に渡る共演者を出すなど異例の成功を取め、高い評価と注目を集めている。

ベルリン教会音楽大学ピアノ科講師、ベルリン市立音楽学校ピアノ科および室内科講師などを歴任。ピティナ・ピアノコンペティション、ベルリン・スタインウェイ・ピアノコンクール審査員。2005年よりドイツ音楽芸術家連盟ベルリン正会員。2007年7月33年間のドイツ滞在を終えて帰国。2008年6月、浜離宮朝日ホールでの帰国記念リサイタルを機に、オーケストラとの共演、日本各地でコンクールの審査、講演、公開レッスン、演奏活動を活発に展開している。昭和音楽大学非常勤講師。

2012年帰国後初のCD「ドビュッシー 12のエチュード全曲」、2014年ショパンプログラムによる「ノアの思い出」、2017年「ショパン 練習曲集作品10、夜想曲選」、2018年「ドビュッシー2台ピアノのための3つのオーケストラ作品」をリリース。「CDジャーナル」「レコード芸術」などで好評を博す。



1980年東京生まれ。5歳よりピアノを始め、東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て東京芸術大学音楽学部を卒業。2010年ベルリン「ハンス・アイスラー」音楽大学大学院コンツェルトイグザーメン課程の卒業試験において最高点で卒業し、国家演奏家資格を取得。その後1年間ブダペストのリスト音楽院にて学ぶ。

在学時より、かずさアカデミアピアノコンクール、日本音楽コンクール、浜松国際ピアノアカデミーコンクール、などの国内のコンクールをはじめ、カラブリア国際ピアノコンクール、ポルト国際ピアノコンクール、アルトゥール・シュナーベルピアノコンクール、フランチ・リスト賞国際ピアノコンクールなどの数々の国際コンクールにて入賞を重ねる。2005年度より明治安田文化財団奨学生に2年間、2007年度文化庁海外研修生、また2008年度よりローム音楽財団研修生となる。

これまでに蘇大フィルハーモニア、ニューフィルハーモニー千葉、東京シティフィルハーモニック交響楽団、ジョイフルオーケストラ高知、ブランデンブルク交響楽団、ベルリンコンツェルトハウスオーケストラ等と共演。特にブランデンブルク交響楽団と共演したシューマンのピアノ協奏曲はドイツ国内の音楽雑誌、新聞等で高い評価を得た。また2010年、2012、2015年に東京文化会館小ホールにて開催したリサイタルでは国内の音楽誌上に高い評価を受ける。2009年より定期的にブダペストのリスト博物館のリサイタルシリーズに出演し、2013年春にはリストソサイエティに招かれ、同博物館にて開催されたワグナー＝リスト音楽週間のオープニングセレモニーに出演。2017年にはドイツ、ハンガリーにてリサイタルに出演し好評を博す。

室内楽では、鈴木良昭（クラリネット）、リンツ・ブルックナーハウスのアンナ・マリア・パーマー（ソプラノ）、ディルク・アルトマン（クラリネット）、江口心一（チェロ）、佐田正秀（ヴァイオリン）、幣隆太郎（コントラバス）各氏等と共演を重ねている。

これまでに大島ひとみ、出羽真理、神谷郁代、堀江孝子、田辺緑、播木枝未子、H.シグフリッドソン、G.クプファーナーゲル、G.ナードルの各氏に師事。また、V.ミシユク、V.マカロフ、A.ヴァルディ、中村紘子、D.パシュキエロフ、P.ギリロフ、B.L.ゲルバー各氏のマスタークラスを受講。

現在ソロピアニストや室内楽奏者として日本各地及びヨーロッパで活動し、後進の育成やコンクールの審査にも携わっている。元東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校非常勤講師。現在、日本大学芸術学部講師。

ドビュッシー没後100年記念

樋口紀美子
脇岡洋平
ピアノ

2台ピアノのための
3つのオーケストラ作品
「牧神の午後への前奏曲」
「夜想曲」「海」

MF25704 定価 2,800円+税
録音2018年5月24日、25日
所沢市民文化センター
ミューズ アークホール

好評発売中



ドビュッシーの管弦楽曲がオーケストラのレパートリーとして定着した現代にあって、これらの2台のピアノのための編曲を聴く意義はどこにあるだろうか。それはあふれんばかりに多彩な管弦楽法の色彩を取り除いても、そこに厳然として現れるドビュッシーならではの音楽の構造の純粋な美しさである。微妙な響きと揺れ動くリズムの変幻の背後に、彼ならではの明晰な形式感が隠れている。わたしたちはいま、彼の作曲家としての驚くべき考察と手腕をよりはっきりと目の当たりにする。もちろんそれが可能となるのは、ふたりのピアニストの頼りなげな音楽的能力に依るものであることは言うまでもない。

樋口隆一 ライナーノーツより

好評発売中

樋口紀美子
ピアノ

mofo line

ドビュッシー
12のエチュード

「ショパンの思い出のために」
MF25701 定価 2,800円(税込)
録音2012年3月 浜離宮朝日ホール
ドビュッシーならではの微妙な陰影を伴った高度な音響表現が、響きの良さで定評のある浜離宮朝日ホールの空間に満ち溢れた！

ショパン
「ノアの思い出」

ピアノ・ソナタ第3番、ノクターン第15番、子守歌、スケルツォ第4番、3つのマズルカ op.59
MF25702 定価 3,024円(税込)
録音2014年3月 浜離宮朝日ホール
零れるようなロマンとドラマティックな叙情が揺蕩うように湧き起ってくる。(ライナーノーツより)

ショパン
練習曲集 Op.10、夜想曲選

練習曲集 作品10(全曲)
夜想曲 第4番 第5番 第6番 第16番 第20番
高音管CD:MF25703 定価 3,024円(税込)
録音2016年4月、12月川口リリア「音楽ホール」
ショパンの原点はバッハだった！
「バッハを原点としてドイツ音楽を中心に研鑽に励んだわけですが、するとむしろ一層ショパンに対する共感が深まりました」 録音・制作:J&F Co.Ltd. Tokyo
発売元:ユニバーサルミュージック合同会社 MS